

	申請者氏名	大山 諒子
論文名	DMPO Spin Trapping Study in Photolysis of Sulfonylarenes	
国際会議名	22nd International Society of Magnetic Resonance Conference (ISMAR-APNMR2021)	
開催地	オンラインにて	
参加期日	August 22-27, 2021	
<p><b>参加目的：</b>当国際会議への参加目的は 2 点ある。1 点目は申請者の研究成果「DMPO スピントラップ法により明らかにしたスルホニルアレーンの光結合解離機構と光反応において発生したスピニアダクトの解析方法」についてポスター発表を行うことである。2 点目は国内外で行われてる ESR, NMR, MRI 関連の最新の研究について情報収集することである。</p>		
<p><b>会議の状況：</b>6 日間全てオンラインにて 7 時から 23 時まで開催された。口頭発表は 3 つのブースに分かれて行われ、オンラインのため会場の人数制限もなく、興味のある分野のセッションへ簡単に足を運んで聴くことができた。また後日、口頭発表に関してはオンデマンド配信が行われたため、当日参加できなかったセッションも聴くことができた。ポスター発表は 3 日間、Remo を使って行われた。興味のあるポスター場所へ自由に行き来し、発表者へ気軽に質問、ディスカッションを行うことができた。</p>		
<p><b>成果概要：</b>申請者は DMPO スピントラップ法を用いてスルホニルアレーン(1a,b)の光結合解離機構について明らかにしたこと(右図)、光反応で生成したスピニアダクトを ESR, MS, 量子化学計算を用いて同定を行ったことを当国際学会にて発表を行った。1 時間のポスター発表時間では約 6 名の先生方が聴きに来て下さり、観測されたスピニアダクトの寿命やスピニアダクトの超微細結合係数の決定方法など多数のご質問をいただくとともに活発な議論ができた。他研究者の方の口頭発表やポスター発表には積極的に参加はしたが、自身の ESR に関する知識不足が原因で時々理解に苦しんだ部分もあった。一方で当国際会議にて、新しい知識を修得できた点はとても良かったと感じている。</p> <p>最後に、このような有意義のある国際会議への参加をご支援いただきましたこと、湯川記念財団 望月基金の関係者様方にこの場を借りてお礼申し上げます。</p>		

